

CSRマネジメント

基本方針

当社は、経営理念である「新しい価値の創造」の実現を追求し、経営ビジョンである「グローバル社会から支持され、必要とされる企業」「足腰のしっかりした、進化し続けるイノベーション企業」となるために、事業活動を通じて社会の質を向上させる価値を生み出し、社会的課題の解決に貢献していきたいと考えています。

当社のCSR活動は、こうした経営理念・経営ビジョンや「コニカミノルタグループ行動憲章」を基本としています。その理解と実践のよりどころとして、全世界共通の「コニカミノルタグループ行動憲章ガイドンス」を



作成し、行動憲章の各項目における望ましい行動を示しています。その中で、国連が提唱し、当社も署名している「グローバル・コンパクト」をはじめ、「世界人権宣言」などの国際的な社会規範を尊重し、その理念に即して行動することを明記しています。

グローバル・コンパクトの10原則

人権	原則1: 人権擁護の支持と尊重 原則2: 人権侵害への非加担
労働基準	原則3: 組合結成と団体交渉権の実効化 原則4: 強制労働の排除 原則5: 児童労働の実効的な排除 原則6: 雇用と職業の差別撤廃
環境	原則7: 環境問題の予防的アプローチ 原則8: 環境に対する責任のイニシアティブ 原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則10: 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

経営理念

新しい価値の創造

コニカミノルタグループ行動憲章

企業は、公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体であると同時に、広く社会にとって有用な存在であることが求められています。コニカミノルタグループは、全社員が本憲章の精神を深く認識し、社会的良識をもって行動します。経営トップは本憲章の精神の実現が自らの役割と責任であることを認識し、率先垂範の上、全社員に周知徹底します。また、グループ内外の声を常時把握し、実効あるグループ内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

1. 商品の有用性・安全性

私たちは、社会的に有用な商品・サービスを安全性に十分配慮して開発、提供し、消費者・ユーザーの信頼を獲得します。

2. 公正・透明な企業活動

私たちは、法令・社会的規範を遵守し、国際ルール、定款に則して行動し、公正・透明な企業活動を行います。

3. 社会とのコミュニケーションと情報の開示

私たちは、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を適時かつ公正に開示します。

4. 環境の保全

私たちは、地球環境問題の重要性を認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。

5. 社会への貢献

私たちは、グローバルな視野を持ち、地域の文化や慣習を尊重し、積極的に社会に貢献します。

6. 社員の尊重

私たちは、社員のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい環境を確保するとともに、社員の人格、個性を尊重します。

7. 責任ある対処

本憲章に反するような事態が発生したときには、予め定めたコンプライアンス手続きに則り、経営トップ自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ確かな情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行います。

CSRマネジメント体制

当社では、取締役会によって任命された「CSR担当執行役」が、グループ全体のCSRに関する責任と権限を担い、その直下に置いた「CSR・広報・ブランド推進部」が、グループ全体のCSRマネジメントを推進しています。CSR活動の進捗については、毎週、CSR・広報・ブランド推進部長がCSR担当執行役に報告し、併せ

て施策のレビューや提案を行っています。さらに、重要案件については適時、経営審議会などに諮るなど、経営課題の一環としてCSR活動を進めています。

また、CSR活動の重要テーマである環境・安全・品質については、環境・安全・品質担当執行役のもとに設置した「社会環境部」が担当。これら3分野の責任者会議や委員会などを主催し、グループ全体の方針策定、体制構築、進捗管理を行っています。



	ステークホルダーの特徴	主な対話機会・コミュニケーションツール
お客様	当社は世界各国で事業を展開しています。お客様は事業ごとに異なりますが、主要事業における主なお客様は企業、官公庁、病院などです。	<ul style="list-style-type: none"> ● ウェブサイト、コールセンターなどの相談窓口 ● ウェブサイト、ニュースレターによる製品情報提供 ● 顧客満足度調査 ● お客様訪問による情報交換 ● ショールーム、展示会における情報交換 ● セミナーの開催
お取引先	当社が原材料や部品の供給を受けているお取引先は、事業ごとに異なりますが、日本および中国を中心とするアジアの企業が大半を占めています。	<ul style="list-style-type: none"> ● お取引先説明会 ● 調達コラボレーションシステム ● CSRアンケート(自己診断アンケート)
株主・投資家	当社は、機関投資家の持ち株比率や、海外投資家比率が高く、国内外での幅広いIR活動が求められています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主総会 ● 個人投資家向け説明会 ● 機関投資家訪問 ● アナリスト・機関投資家向け説明会 ● アニュアルレポート、株主通信 ● IRサイト
従業員	当社で働く従業員数は、全世界で41,598名です。その構成比率は、日本29%、欧州22%、米国19%、中国を中心とするアジアおよびその他が30%です(連結対象の正規従業員数。2015年3月31日現在)。	<ul style="list-style-type: none"> ● 双方向のイントラネット ● グループ報 ● 従業員意識調査 ● 労働組合との協議 ● 内部通報システム(ヘルプライン) ● 経営トップによる生産現場巡視時の意見交換 ● 経営トップによるタウンミーティングの開催
地域・国際社会	当社は、世界各地に拠点を置いており、それぞれの地域のコミュニティの一員として、活動しています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会への貢献活動 ● 地域報告会、招待イベント ● 講演、教育の場への講師派遣 ● 業界団体を通じた活動 ● 環境報告書、ウェブサイト ● 国際的な刊行物やウェブサイトでの情報発信
地球環境	ものづくりに携わる企業として、事業活動にともないさまざまな環境負荷を与えています。例えば、気候変動に影響を与えるCO ₂ 排出や、枯渇資源である石油由来資源の使用、生態系への影響などです。	<ul style="list-style-type: none"> ● CSRレポート、環境報告書、ウェブサイト ● 地域報告会、説明会 ● 研究機関との協働

CSRマネジメント

CSR重要テーマと目標の設定

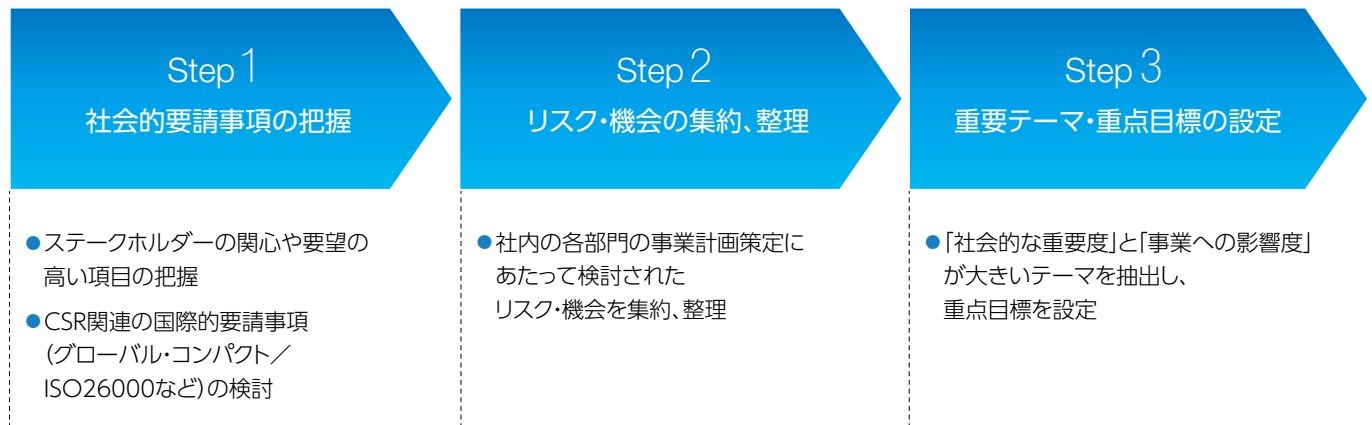
当社では、CSR・広報・ブランド推進部がグループ内のコーポレート企画管理部門と連携して、CSR活動の重要テーマや目標を設定し、活動や成果の進捗確認を行っています。

重要テーマ・目標の設定にあたっては、まず、さまざまなコミュニケーションを通じて得られたステークホルダーの皆様の声か

ら、関心や要望の高い項目を把握しました。加えて、グローバルコンパクト、ISO26000をはじめ、CSR関連の国際的な要請事項も検討しました。さらに、各部門の事業計画の策定にあたって検討されたリスクと機会を集約、整理しました。

これらの結果に基づいて、社会的な重要度が高く、かつ事業に与える影響が大きいと思われる課題を抽出し、当社の重要テーマとし、目標を設定しました。

CSR重要テーマ・目標の設定フロー



コニカミノルタのCSRに対する外部評価

当社は、国際的な社会的責任投資（SRI）指標の構成銘柄に選定されています。

米国のダウ・ジョーンズ社とスイスのRobecoSAM社による「Dow Jones Sustainability Indices (DJSI)」のWorld Indexには3年連続で採用され、Asia Pacific Indexにも6年連続で採用されています。また、「FTSE4Good Global Index」には12年連続で採用されているほか、「モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI)」の構成銘柄にも選定されています。

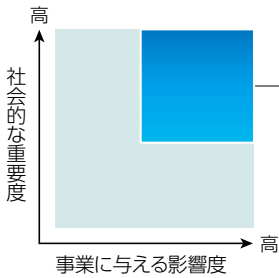
さらに、RobecoSAM社のCSR格付で最高ランクとなる「ゴールドクラス」に選定されるほか、oekom research AGによるCSR格付で「Prime」の認定、Forum ETHIBELの

「Ethibel Pioneer」および「Ethibel Excellence」の投資ユニバースへの選定など、さまざまなSRI調査機関から高い評価を受けています。

また、持続可能な経済の実現を図る国際NGO「CDP」からは、「クライメート・パフォーマンス・リーダーシップ・インデックス2014 (CPLI:気候変動パフォーマンス先進企業)」および「CDPジャパン500クライメート・ディスクロージャー・リーダーシップ・インデックス (CDLI:気候変動情報開示先進企業)」に選定されました。なお、今回、情報技術セクターでCPLIとCDLIの両方に選出された日本企業は、コニカミノルタ1社のみとなっています。

(2015年3月31日現在)

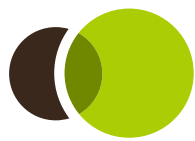
コニカミノルタのCSR重要テーマ



CSR重要テーマ	バウンダリー	対応するG4*側面
製品の安全性確保と品質トラブルの未然防止	グループ内	顧客の安全衛生
お客様満足度の向上	グループ内	
サプライチェーンにおけるCSRの推進	サプライヤー	サプライヤーの労働慣行／ 人権／社会への影響評価
株主・投資家とのコミュニケーション強化	グループ内	
多様な人財の活用および育成	グループ内	研修および教育
健康第一の風土醸成	グループ内	労働安全衛生
労働安全衛生の推進	グループ内	労働安全衛生
各国における社会貢献活動の展開	グループ内	地域コミュニティ
グリーンプロダクト	お客様	<ul style="list-style-type: none"> ● 原材料 ● エネルギー ● 大気への排出 ● 製品とサービス ● 輸送・移動
グリーンファクトリー	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ内 ● サプライヤー 	
グリーンマーケティング	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ内 ● お客様 	

* G4 : GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版

MEMBER OF
Dow Jones Sustainability Indices
In Collaboration with RobecoSAM



ROBECOSAM
Sustainability Award
Gold Class 2015



モーニングスター社会的責任投資株価指数
Morningstar Socially Responsible Investment Index



CSRマネジメント

目標と実績

ステークホルダー	重要テーマ	2014年度目標
お客様	製品の安全性確保と品質トラブルの未然防止	1) 製品の重大事故※1発生件数:0件 2) 製品ライフサイクル※2を通じた製品、販売・サービスの品質向上
	お客様満足の向上	
お取引先	サプライチェーンにおけるCSRの推進	<ul style="list-style-type: none"> グループ生産拠点およびお取引先の監査 お取引先の自立的な活動に向けた支援 お取引先のインセンティブの明確化
		<ul style="list-style-type: none"> 紛争鉱物対応方針の策定と推進 取り組み範囲の拡大
株主・投資家	株主・投資家とのコミュニケーション強化	<ul style="list-style-type: none"> 新中期経営計画「TRANSFORM 2016」の積極的な情報発信と理解促進（機関投資家・個人投資家とも）
		<ul style="list-style-type: none"> 個人投資家の当社株式購入の促進に有効なコンテンツ拡充やPRの実施
		<ul style="list-style-type: none"> 投資家からの意見をフィードバックし、より投資対象として魅力を感じさせる情報を発信
従業員	多様な人財の活用および育成	<ul style="list-style-type: none"> 人財育成と活用のためのプラットフォームを軸に、グローバル共通の人事施策を推進 ワールドワイドに人財育成と活用を行うために、理念の浸透と制度の構築を推進
	健康第一の風土醸成	<ul style="list-style-type: none"> 1) 健康中期計画「健康KM2016」を策定、展開開始 健康度目標を設定し3カ年計画で取り組み 健康リスクを抱える従業員の最小化 従業員の健康度の「見える化」による健康意識の向上
	労働安全衛生の推進	<ul style="list-style-type: none"> 1) 重篤災害※4発生件数:0件 2) 休業災害度数率:0.1以下 安全風土醸成強化:「トップの安全関与」「職場の安全管理」「個人の安全意識向上」 グローバル安全衛生マネジメントの向上 設備本質安全の深化(リスク低減)
地域・国際社会	各国における社会貢献活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> CSRレポート2015 P.44に2014年度の主な取り組みを掲載
地球環境	グリーンプロダクツ	
	グリーンファクトリー	<ul style="list-style-type: none"> P.21-22「中期環境計画の進捗報告」に掲載
	グリーンマーケティング	

※1 重大事故：製品使用者の生命、身体に重大な被害を及ぼした場合、製品以外の財産に重大な被害を及ぼした場合を対象とします

※2 製品ライフサイクル：製品の企画から開発、調達、生産、販売、サービスまでのすべてのプロセスのこと

2014年度実績	2015年度目標
<p>1) 製品の重大事故※1発生件数:0件 2) 製品ライフサイクル※2を通じた製品、販売・サービスの品質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 製品安全の徹底を目的とした「リスクアセスメント演習」の教育を実施 ● 情報機器事業では、グローバルでNPS※3を測定し、お客様の声をもとに、開発・生産・販売一体となった対策を実施 ● ヘルスケア事業ではコールセンターでの自己解決率が発足時の60%から80%に向上 	<p>1) 製品の重大事故※1発生件数:0件 2) 製品ライフサイクル※2における品質向上</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● グループ生産拠点に対し、EICC監査を実施 ● お取引先の支援プログラムの検討 ● お取引先へのインセンティブプログラムの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● お取引先へのCSRの要請 ● CSR診断と監査の実施 ● お取引先の支援プログラムの明確化 ● お取引先のインセンティブプログラムの明確化
<ul style="list-style-type: none"> ● コニカミノルタ紛争鉱物対応方針の表明 ● 情報機器部門の自主調査において、取り組み範囲を拡大し、回答の回収率・回答精度を向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な情報開示 ● 紛争鉱物調査の回答の回収率・回答精度のさらなる向上
<ul style="list-style-type: none"> ● アナリスト・機関投資家向けに「経営方針説明会」(4月)、「中計説明会」(5月)を実施し、経営トップが基本方針、成長戦略について直接説明 ● 個人投資家向けに会社説明会を東京(12月)、大阪(15年2月)で開催。合計約700名の個人投資家に対して経営トップが事業概要、成長戦略について直接説明 ● アナリスト・機関投資家向け事業説明会を2回(9月、10月)開催。情報機器事業の成長戦略について説明 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中期経営計画に対する理解促進を目的とした情報発信を継続
<ul style="list-style-type: none"> ● 個人投資家に向けたIRサイトのブラッシュアップ ● ゴメスIRサイトランキングで2年連続「金賞」受賞 ● 大和IRインターネットで「最優秀賞[総合1位]」受賞 ● 日興IR評価で「最優秀サイト」に2年連続選定 ● 個人投資家イベントに参加(2月、大阪)。会社説明会やブース展示を通して、事業概要や成長戦略について直接説明 ● 証券会社支店での会社説明会を実施(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人投資家向けIRサイトに対する高い外部評価の維持と、閲覧者の使い勝手を意識したユーザビリティの向上 ● 個人投資家向け説明会やイベントに継続して対応
<ul style="list-style-type: none"> ● アナリストとのスモールミーティングを開催(12月)。また、国内外の機関投資家とのミーティングも適時実施し、経営トップとの双方向のコミュニケーションを継続的に実施 ● 各説明会でアンケートを実施。今後のIR活動の参考として経営トップを含め社内でも共有 	
<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル幹部層に対し、適性評価を共通の基準で実施 ● コニカミノルタ(株)の管理職評価制度を改定し、6 Valuesを評価軸に導入 ● 各拠点で従業員との社長タウンミーティングを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル従業員意識調査を実施 ● アジア幹部人財の計画的育成のためのプログラムを実施 ● 社長タウンミーティングの継続実施
<p>1) 健康中期計画「健康KM2016」を策定、展開開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「重症化予防施策」の国内グループ関係会社への展開 ● ストレスチェックの組織分析結果に基づく職場改善施策の実施 ● 従業員の健康増進支援のための健康応援サイト「KENPOS」の導入、稼働開始 ● 従業員の運動・歩行習慣定着に向けたウォーキングイベントや運動講習会の実施 <p>2) 2015年3月「健康経営銘柄」に選出</p>	<p>1) 健康中期計画「健康KM2016」の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国内グループ関係会社に対する支援内容の拡充、強化 ● 職場改善策強化による高ストレス職場数の削減 ● 「KENPOS」の継続利用率向上
<p>1) 重篤災害※4発生件数:0件 2) 休業災害度数率:0.28(国内)、0.19(海外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全風土醸成強化:管理職安全教育、危険感受性向上教育、危険作業有資格者のレベルアップ教育の実施 ● グローバル安全衛生マネジメント:中国安全衛生責任者会議、危険体感研修の実施 ● 設備本質安全:新規工程での総合リスクアセスメントの実施 	<p>1) 重篤災害※4発生件数:0件 2) 休業災害度数率:0.1以下</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全風土醸成の強化:「トップの安全関与」「職場の安全管理」「個人の安全意識向上」 ● グローバル安全衛生マネジメントの向上 ● 設備本質安全化と各安全分野での総合リスクアセスメント

※3 NPS(ネット・プロモータ・スコア)：企業や製品、サービスを他者に推奨する割合を測定した指標

※4 重篤災害：①死亡、長期療養を要する(または可能性のある)疾病、障がいの残る(または可能性のある)怪我、特定伝染病
②一時に3人以上の労働者が業務上死傷または罹病した災害(不休含む)